

001

動画編集の基本

動画編集とは？

スマートフォンの性能は年々上がり続けており、それに伴い、動画を撮影する機会も増えています。ですが、撮影した動画をそのままにしている人も多いのが現状です。撮り貯めた動画を編集し、1本のムービー作品としてまとめてみましょう。



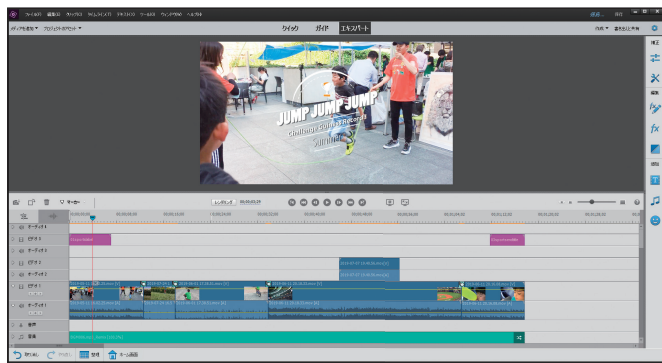
動画編集とは？

動画はスマートフォンやデジタルビデオカメラ、あるいはデジタルカメラの動画撮影機能などを使って撮影します。その際、＜録画＞ボタンを押すと動画の記録が始まり、＜停止＞ボタンを押すまでの一連の動きが**動画ファイル**として記録されます。この録画開始から停止までの映像を**カット**といいます。

撮影したカット内には、無駄な映像や不要な映像も多く含まれます。たとえば、子どもの運動会のビデオ撮影をしているとき、出番が近づいてきて＜録画＞ボタンを押した後、よい撮影ポジションを探すために移動したとします。すると、移動中の映像は手ブレが激しく、地面ばかり映っていたりするかもしれません。

そのような無駄な部分を取り除き、必要なカットを表現に合わせて順番に並べていく作業が**動画編集**です。動画編集で扱うのは映像素材だけではなく、写真素材、BGMなどの音楽素材、ナレーションなどの音声素材、タイトルやテロップなどの文字素材を駆使して、より魅力的に見えるように演出していきます。

本書で使用するAdobe Premiere Elementsをはじめとする**動画編集ソフト**は、このような編集をするためのソフトウェアなのです。



▲ Premiere Elements の画面

002

動画編集の基本

動画編集に必要なもの

動画編集をするためには、パソコン、動画編集ソフト、映像記録装置などが必要です。また、カードリーダー、外付けハードディスク／SSD、光学ドライブなどのほか、撮影済みの映像素材があると便利です。これらの機能や特性について解説します。

 動画編集に必要なもの

パソコン

いうまでもないことですが、動画を編集するためにはパソコンが必要です。デスクトップパソコンとノートパソコンのどちらでも作業はできますが、搭載する**メモリの容量**のほか、**ハードディスク／SSDの空き容量**には注意が必要です。各種素材ファイル、編集ファイル、完成した動画ファイルを合わせると、ハードディスク／SSDには数Gバイトから十数Gバイトの空き容量が必要です。

動画編集ソフト

動画編集ソフトは有料のものだけでなく、無料のものもあります。製品によって性能には差がありますが、動画素材から部分的にパートを抜き出し、つなぎ合わせて1本の動画として出力する機能はほとんどのソフトウェアで備えています。

使用する動画ソフトによっては、操作方法が異なる場合や、特定の機能が搭載されていない場合もあります。本書では、Adobe Premiere Elements(アドビプレミアエレメンツ、以下Premiere Elements)という動画編集ソフトを例に解説します。Premiere Elementsは多くのバージョンがありますが、本書はPremiere Elements 2020／2019／2018の3つを想定して解説します。

映像記録装置

動画素材を記録するため、**ビデオカメラ、デジタルカメラ、スマートフォン**などの映像記録装置が必要です。最近はビデオカメラだけでなく、デジタルカメラでも高画質の動画撮影ができる機種があります。また、ビデオカメラ顔負けの高度な撮影機能を搭載するスマートフォンもあります。



動画編集であると便利なもの

カードリーダー

通常、ビデオカメラやデジタルカメラは、SDカードなどの**メモリカード**に動画を記録します。カメラとパソコンをケーブルで接続することで、カメラで撮影した動画ファイルをパソコンに取り込むことができますが、その場合はカメラの電源を入れておく必要があります。カードリーダーがあれば、複数のメモリカードを交換して利用でき、さまざまなタイプのメモリカードを読み込めるので便利です。

外付けハードディスク／SSD

素材の数や動画の長さにもよりますが、各種の素材ファイルのほか、編集ファイル、完成した動画ファイルなどを合わせると、ハードディスク／SSDには**数Gバイト～数十Gバイト**、**場合によってはそれ以上の**空き容量が必要です。パソコン本体のハードディスク／SSDに保存していくと、すぐに一杯になるかもしれません。外付けハードディスク／SSDを用意することで、空き容量を心配することなく、各種ファイルをまとめて保存しておくことができます。

光学ドライブ

編集した動画をDVDやBlu-rayなどの光学メディアに記録するには、**各種光学メディアの記録に対応した光学ドライブ**が必要です。パソコンに光学ドライブが搭載されていない場合は、USB接続の外付けドライブを使用します。

あらかじめ撮影しておいた素材

動画編集をするためには、元素材となる**動画、音楽、写真などの各種素材**が不可欠です。ビデオカメラやデジタルカメラなどで撮影し、あらかじめ素材を用意しておきましょう。最近はスマートフォンのカメラ性能が向上し、高解像度の動画が撮影できるようになりました。日ごろから気になるシーンやイベントを撮影して、いろいろな素材を溜り溜めておきましょう。

003

動画編集の基本

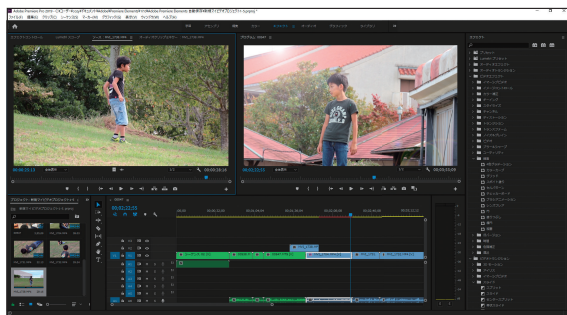
動画編集ソフトでは
何ができる？

動画編集をするためには、動画編集ソフトが必要です。動画編集ソフトは有料のものと無料のものがありますが、搭載する機能はソフトによって異なります。必要な機能を搭載しているか、操作が分かりやすいかなどが、選択する際のポイントとなります。

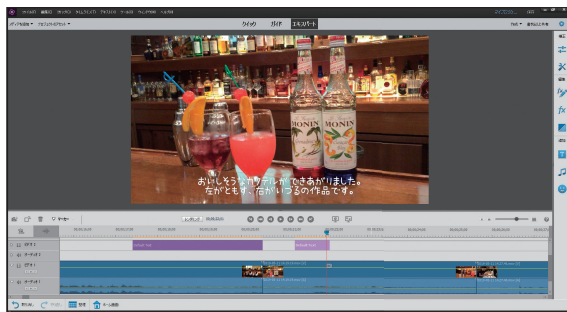
▶ 動画編集ソフトの機能

動画編集ソフトとは、映像、写真、音楽、文字、タイトルなどの各種素材をつなぎ合わせて、1つのムービー(動画)として編集するためのアプリケーションです。作成したムービー作品は、DVDやBlu-rayをはじめとする各種メディアに出力(記録)することも可能です。最近ではこのようなメディアだけでなく、YouTubeやVimeoなどの**動画配信サービスに直接出力する機能を備えた動画編集ソフト**もあります。

代表的な動画編集ソフトには、以下のような製品があります。



◀ Premiere Pro



◀ Premiere Elements

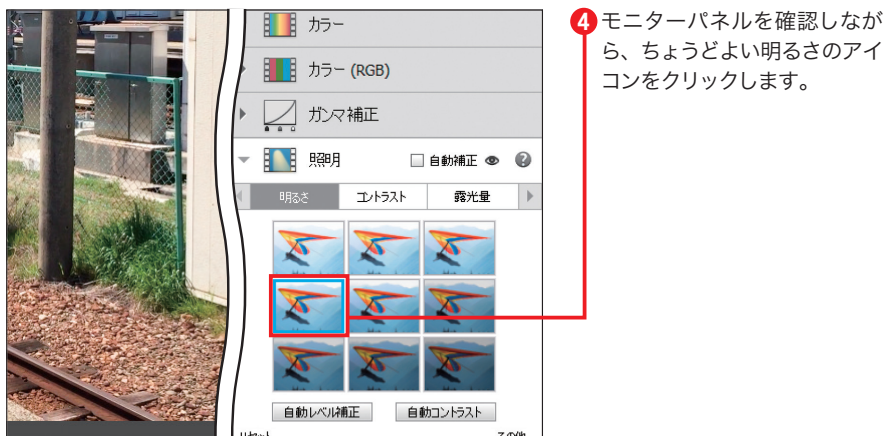
060

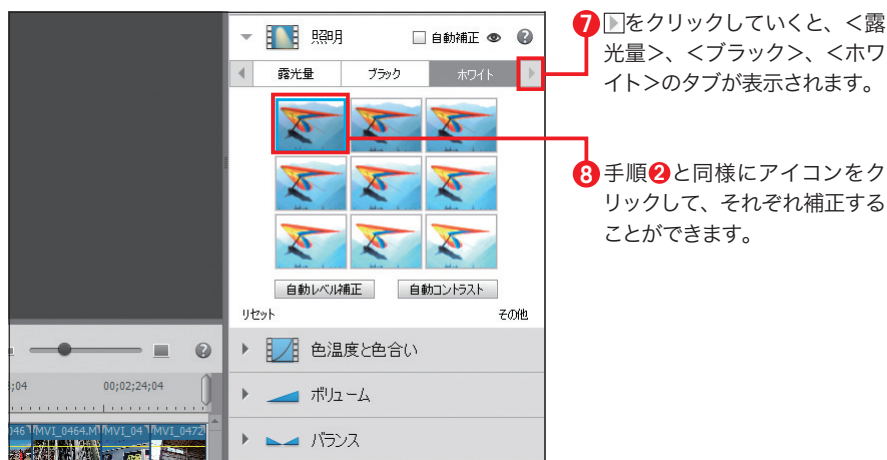
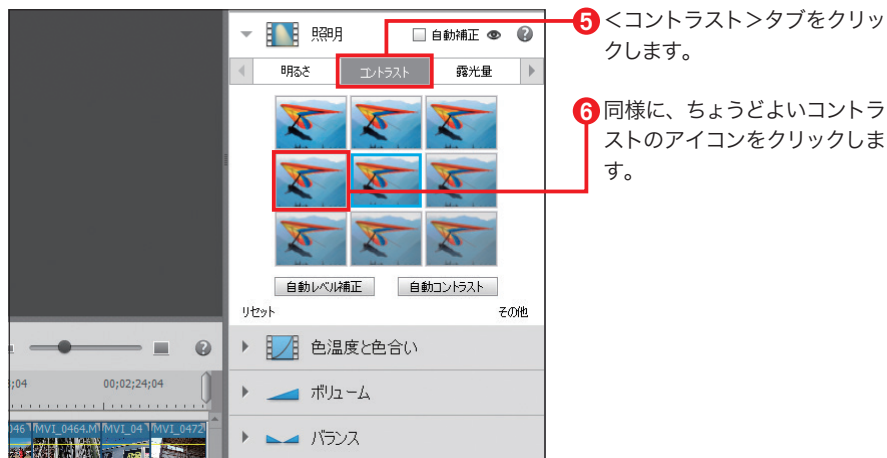
明るさ・コントラスト

クリップの明るさ・コントラストを補正する

クリップが暗くて見えづらい場合には、＜調整＞パネルの＜照明＞機能を利用して補正しましょう。サムネイルをクリックすることで補正が適用されるので、わかりやすい調整方法です。

▶ 明るさやコントラストを補正する





Memo



設定をリセットするには？

左下の<リセット>をクリックすると、設定した内容がリセットされます。



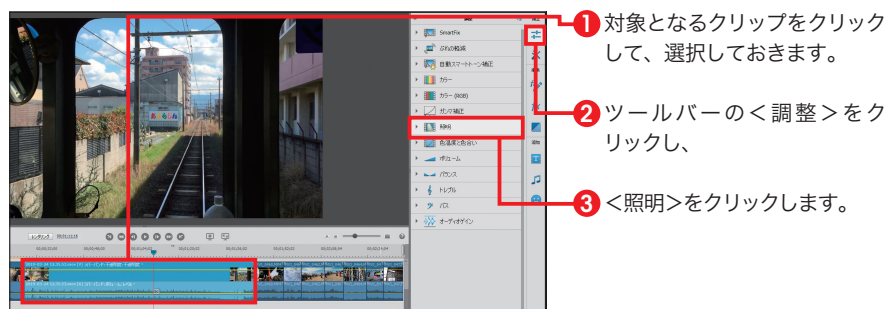
061

明るさ・コントラスト

明るさ・コントラストを詳細に設定する

通常は、明るさ・コントラストは簡易的な調整ですが、より詳細な調整をすることも可能です。また、明るさ・コントラストだけでなく、カラーバランスについても同様の調整ができます。

▶ カラーバランスを詳細に設定する



- 5 「明るさ」、
「コントラスト」などの
スライダーをドラッグし、
目的の色調になるように
調整します。

Memo
「その他」ボタンは
他にもある

「カラー」、
「カラー (RGB)」、
「ガンマ補正」、
「色温度と色合い」
についても同様に、
詳細な設定が可能です。

<照明>では、<明るさ>と<コントラスト>だけでなく、<露光量>、<ブラック>、<ホワイト>も調整が可能です。それぞれ調整できる内容が異なるので、その違いについて理解しておきましょう。

●明るさ

動画全体の明るさを調整します。



●コントラスト

動画全体の明暗差を調整します。コントラストが強いと色味も派手になり、明暗差がきつくなります。



●露光量

全体のバランスを保ったまま、動画全体の明るさを調整します。「明るさ」より自然な仕上がりになります。



●ブラック

動画の黒のレベルを調整します。値を大きくすると、動画内の明るい部分への影響は抑えつつ、暗い部分が強調されます。



●ホワイト

動画の白のレベルを調整します。値を大きくすると、動画内の暗い部分への影響は抑えつつ、明るい部分が強調されます。



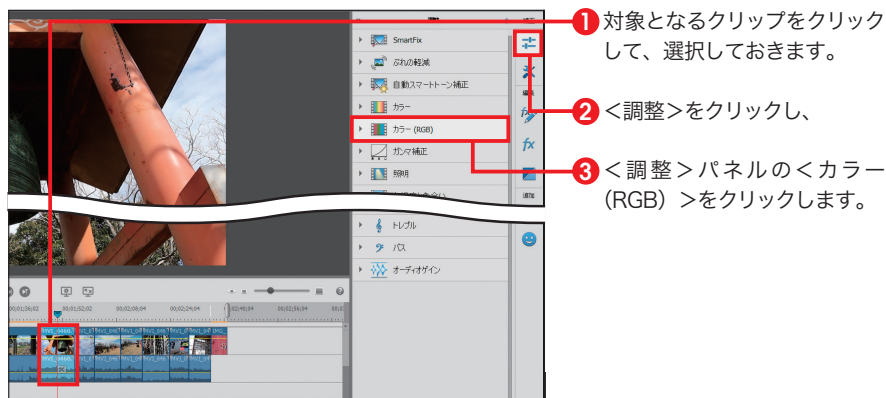
062

カラーバランス

クリップのカラーバランスを補正する

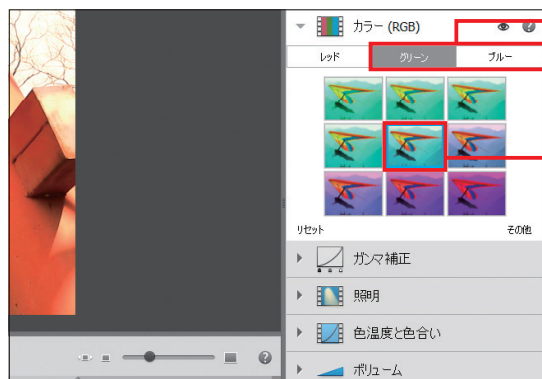
動画や写真の色味は、撮影時の光の具合によって大きく変化します。ここでは、クリップの色調を整える＜カラー（RGB）＞の使い方と、彩度を調整できる＜カラー＞の使い方について解説します。

▶ カラーバランスを補正する



設定をリセットするには？

手順④～⑦のあと、左下の＜リセット＞をクリックすると、設定した内容がリセットされます。



⑥ <グリーン>タブ、<ブルー>タブをクリックして切り替え、

⑦ それぞれサムネイルをクリックして、色味を調整します。

彩度を補正する



① <調整>パネルの<カラー>をクリックし、

② <彩度>タブをクリックして切り替えます。



③ モニターパネルを確認しながら、サムネイルをクリックして彩度を調整します。



彩度は演出にも使える

彩度を下げていくと鮮やかさがなくなり、セピアやモノクロになります。演出としても使える機能なので、ぜひ活用してみてください。